

里村放二 キミカワ 小説家。明治二十五年二月十二日岡山縣生れ、昭和

二十一年二月二十三日没（六三十一歳）。本名前川一亨。大正十五年雜誌

『文藝戰線』同人。日本プロレタリア藝術聯盟、勞農藝術家聯盟を經

て、昭和七年勞農文化聯盟に參加。のち前田河廣一郎、葉山嘉樹等と

プロレタリア作家クラブを興し、『勞働文學』を創刊。十一年特務兵と

して支那各地を二年間巡戦、十六年陸軍報道班員。ナイリピンに戦死

した。

著書『名僧の人生觀』（小島 徳彌合著・人生哲學研究會編、大正十

四年四月十一日越山堂「人生哲學大系」）、『近代人の人生觀』（中

西伊之助・大坪草二郎  
京幸大郎・萩原 新生合著・同、昭和二年六月二十五日新社。再刊

・九月二十日（二水社）、『戦争に對する戦争』（ヤンチ・シリタリズム

小説集）』（合著・日本左翼文藝家總聯合會・萩原惟人編、昭和二年五

月二十五日南東書院）、『第一の人生』全三冊（第一部・昭和十五年

四月十六日、第二部・十月二十八日河出書房「書多下ろし」長篇小説叢

書）、第二部『徐州戦』十六年五月十五日河出書房）、『我らは如何

に闘つたか』（合著・三省堂出版部編、昭和十六年五月十日三省堂）、

『祖國のため』（合著、昭和十六年十一月五日三省堂編刊）、『熱

風』（昭和十七年十月二十日朝日新聞社）、『オランダの戦時集』（合著、

昭和十八年二月二十日朝日新聞社）、『從軍隨想』大東亞 戦 争 陸軍報道班

員手記』（合著・文化奉公會編、昭和十八年六月二十八日大日本雄辯

會談社）、『少國民大 東亞戰時靜かなる敵前（上級用）』（昭和十八年十月

二十日成徳書院）、『オランダ・マニラ 河の民』北ホルネオ記行』（昭和十八年十一

月二十五日有光社）、『少年戦車兵』（松（杉）坂弘武著・文化奉公會

鑄、昭和十九年五月二十一日東京亞細亞院「陸軍少年兵叢書」(一)等。

文獻、高崎隆治著「從軍作家里村欣二の謎」(平成元年八月十五日梨  
の木舎)等。